事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる 心豊かな国創り

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

Vol.15
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町
15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640

北海道支部　〒060-0807 札幌市北区北７条西４－１－２（札幌丸増ビル４Ｆ）　電話(011)738－0641　FAX(011)738－0640
東北支部　〒984-0816 仙台市若林区河原町１－３－24（大和第２ビル１Ｆ）　電話(022)716－6701　FAX(022)716－6710
関東支部　〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15－18（日本橋ＳＫビル４Ｆ）　電話(03)3639－1571　FAX(03)3639－3980
北信越支部　〒950-0951 新潟市鳥屋野２－11－16（古木工業ビル１Ｆ）　電話(025)282－1031　FAX(025)284－7810
中部支部　〒460-0008 名古屋市中区栄３－28－21（愛知建設業会館６Ｆ）　電話(052)249－7661　FAX(052)242－6280
近畿支部　〒530-0012 大阪市北区芝田１－４－14（芝田町ビル８Ｆ）　電話(06)4802－3071　FAX(06)4802－3070
中国支部　〒730-0017 広島市中区鉄砲町５－21（協栄生命広島鉄砲町ビル５Ｆ）　電話(082)511－2051　FAX(082)227－2720
四国支部　〒760-0055 高松市観光通２－２－15（ダイヤビル本館７Ｆ）　電話(087)812－0131　FAX(087)812－0130
九州支部　〒812-0011 福岡市博多区博多駅前４－10－13（奥村第３ビル４Ｆ）　電話(092)472－7000　FAX(092)472－7100
ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/ Ｅメール info@kasetsuanzen.or.jp 各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

公共工事から事故をなくす

全国土木施工管理技士会連合会のセーフティ・アナリシス・システム（ＳＡＳ）センターで、公共工事の施工中に発生した労働災害や第3者災害など事故のデータベース構築が始まりました。ＳＡＳセンターはこの11月から、公共工事発注者からの事故に関する情報の登録制度をスタートさせたもので、昨年2月、建設省（現国土交通省）が「建設工事事故対策検討委員会」を設置して検討を重ねてきた結論を具体化させることになります。検討成果の具体化では初弾となるものです。全産業のなかでも労働災害による死亡者の4割を建設業が占める事実が示すように、他産業に比べて多い建設工事の事故防止に向けて、これまでに発生した事故を類型化し、発生類型別の事故対策を講じるためのベースとなります。

ＳＡＳセンター　データベース構築開始

当時の建設省が設置した検討委員会が議論したのは「事故情報の技術的分析」「課題・問題点の改善手法」「重大事故発生時の事故調査特別委員会の支援策」などが中心になっていました。

建設業の労働災害のうちで、もっとも多いのが「墜落・転落事故」。高層、超高層といった高いところから落ちる事例を想像しがちですが、実際には2階、3階といった低層部から落ちるケースが多い。こうした点がヒューマンエラーといわれる原因です。労働者のうっかりミスというわけです。こういった認識は変えなければなりません。

検討委員会では、このような事故発生の実態を踏まえて、事故防止対策を議論してきたもので、まず、発生した事故のデータベースを構築することにしました。

この検討委員会の結論を受けて、全国土木施工管理技士会連合会にＳＡＳセンターを設けて、データベースの構築に乗り出すことになりました。

発生した事故データの登録受付は11月から始まっています。

類型別に原因究明、対策講じる

事故が発生したときには、公共工事の発注者は、施工を請け負った建設会社から報告を受けます。受けた事故の報告をセンターのホームページにアクセスして情報を提供するシステムを整備しました。

事故の発生状況（発注者）、事故報告（発注者と受注者）をホームページからダウンロードしたマニュアルに記入し、ＳＡＳセンターのホームページに送信します。

ＳＡＳセンター、全国土木施工管理技士会連合会、国土交通省は、登録された事故データを類型別に分けて、それぞれにどんな原因があるのかを探り、その発生原因を封じるための対策を講じて、発注者や建設会社にフィードバックするシステムをつくりあげます。

このため、国土交通省では2002年4月から、データベースを検索できるシステムの開発に着手します。こうした対策を充実させることによって公共工事から事故をなくしたいとしています。

仮設安全時評

仮設の設計が安全に必要

建築家　林　昌二

まずは「仮設」の話から。

設計事務所から出る設計図には「仮設」の図面は描かれていません。それはなぜなのか。建築物の完成した姿だけを記しておき、そこに至る過程は、大筋として工事業者におまかせと割り切って、こういうしきたりになっているのでしょう。

例外はコンクリート打ち放し仕上げの場合です。当然ながら仮設材が仕上げに大きく影響しますから、それで仕上げが決まるかというと、そうでもなくて、型枠板の厚さも、その裏の使用も、影響してきます。本気でやるのなら、仮設全体を詳しく設計しなければならなくなりますが、それは大変。ではどうしますか。

昔、アントニン・レーモンドという建築家は仕様書に「一流状態」に仕上げる、と記したことで有名でした。言い得て妙、といいたいところですが、そんな表現がまかり通ったのは、米国先生と日本生徒の関係が背後に控えていたからです。これを建築家先生と業者生徒の関係に強引に置き換えた先輩の先生方も、ついこの間まで存在しておられたのでした。えっ？　今でもまだおられますか。それは失礼。

ところで、「一流」という表現の理由をただしてゆくと、表面の仕上げと仮設材との、また仕上げ材と下地材との、あまりに微妙な関係が浮かび上がります。

そもそも自然材料である木質系の型枠の、コンクリートへの転写効果を文字で指定するなどは至難の技です。仕上げ面の精度の表現も、理論上はともかく、実効ある表現となると、頭の痛い話になります。それはもう、職人の技の世界だからです。先生と生徒の関係が消え去って、両者が全く対等平等の契約の世界になったとき、職人の技を「一流・二流」という表現に頼らずに、どのように表現すればよいのか、ここには意外に奥深い問題が伏在しています。

話は変わって、次は「安全」です。工事現場の「安全」については、日本は世界に誇る水準に達しています。そのために工事費が高いと言われることがありますが、それは止むを得ないこと。階級差のない社会。クライアントもアーキテクトも職人たちも、みんな同じ空気を吸って仕事をする環境を作り出せたのは、戦後民主主義の素晴らしい成果でした。ところが近年、グローバリゼーションとやらの風が吹き荒れて、階級社会に戻るおそれが感じられますが、大丈夫でしょうか。

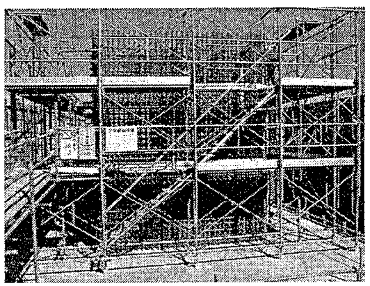
せっかく工事現場は世界に誇る安全水準を保っているのに、目を逸らしたくなる危険な風景があります。それは、近ごろはやりの建築の、ガラスに覆われた外装のクリーニング風景です。なにを思ったのか、ガラス壁が傾斜していたり、時には逆傾斜さえあり、甚だしいのはガラスの塔まがいが立っていたりして、そこでクリーニングに従事している「いのち知らず」は、プロではなくて大学山岳部の学生アルバイトだと聞きました。かのパリはポンピドーセンターのガラスのピラミッドも、何大学かは知りませんが山岳部のお世話になっているとか。珍奇な建築でも、恰好の練習台になって、おまけにお金もたっぷり頂けると部員が喜んでいる限りは、あえて他人が口を出すことはないようにも思うのですが、こんなことでよいものかどうか。

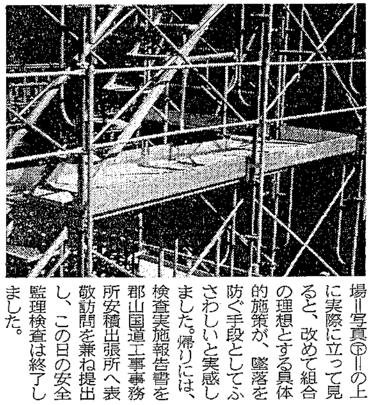
安全を考えると足場などがくっついて、つまらない設計になってしまうというのだったら、知恵が足りないのではありませんか。あの学生さんたちが、山に登るまえにビルで犠牲になってしまったら、設計者はどのような顔でお詫びするのかと、要らぬ心配をしてしまいます。

モデル現場の安全監理点検

東北支部

十貫内下部工工事作業所
つま先板、2段手すり設置





当組合の東北支部（成田幹夫支部長）は去る11月5日、国土交通省東北地方整備局のモデル現場である十貫内下部工工事作業所＝写真㊤＝を訪問、安全監理検査を実施しました。現場は福島県須賀川市内北部に位置する国道4号線のバイパス工事で、普段から大変交通量の多いところです。

現場事務所で元請けの壁巣建設の本田所長から工事概要の説明を聞き、橋脚1基、橋台1基が検査対象となりました。

今回検査を行った安全監理者は鈴木一美氏（日綜産業）、長尾信一氏（日建リース工業）、そして東北支部から岩舘克人安全監理室長代理の3人が参加、組合指定の専用足場点検表により最初に橋脚を検査しましたが、コンクリートの打設も終わり足場解体を待つ状況で整然とした作業床でした。引き続き橋台の検査に移りましたが、型枠作業中で一部型枠関連材が通路に置いてありましたが、安全面では問題なく、鈴木安全監理者から「つま先板および2段手すりが設置されており、安全面において大変すばらしい作業環境です」との特記事項が記された検査実施報告書が本田所長に渡されました。

この現場のように、両サイドにつま先板を設置し、段差のないすきま塞ぎ板を敷き、さらにブレースの上に2段手すりを設置した足場＝写真㊦＝の上に実際に立って見ると、改めて組合の理想とする具体的施策が、墜落を防ぐ手段としてふさわしいと実感しました。帰りには、検査実施報告書を郡山国道工事事務所安積出張所へ表敬訪問を兼ね提出し、この日の安全監理検査は終了しました。

北信越支部

神代函渠工事作業所
3件目の安全点検

北信越支部（太田雅征支部長）は、北陸地方整備局発注のモデル工事について、同局より安全点検の実施要請を受け、すでに2件の安全点検を行っていますが、10月4日には3件目の安全点検を実施しました＝写真。今回の安全点検の対象工事は、富山県氷見市神代地内の神代函渠工事で、高さ9㍍、幅9・1㍍、長さ97・7㍍の函渠の鉄筋・型枠工事用足場で、手摺（す）り先行足場が採用されています。この安全点検には、北陸地方整備局富山工事事務所能越国道出張所長および技術係長、施工業者である氷見土建の常務取締役土木部長および同社工事事務所長の立会の下、仮設機材のメーカーおよび納入業者所属の仮設安全監理者を含む5名で安全点検を実施しました。

現場の状況から、安全点検は2班編成とし、現場の安全チェックに約1時間、その後の点検結果の検討・取りまとめ、および改善依頼に約1時間、計2時間で終了しました。

発注機関立会人からは、「手摺先行足場で、交差筋交いを外した場合の強度」についての質問が出され、施工業者立会人から「手すり先行足場は、従来の足場と比較して、組み立てに若干時間はかかるが、安全性が非常に高いので現場としては、今後もぜひ採用したい」との意見が表明されております。

なお、当支部では新たに旧運輸省サイド発注のモデル工事2件についても、「安全点検の実施要請」を受けており、今後、順次実施していきます。

「全国仮設安全大会」開催

12月4日に横浜で

式典・講演・実務研修・展示で構成

わたしたち全国仮設安全事業協同組合は12月4日、横浜市内のポリテクセンター関東で、「全国仮設安全大会」を開催します。大会スローガンに「見える安全感じる安心」を掲げており、社団法人軽仮設リース業協会に協賛を、日刊建設通信新聞社など建設専門紙に後援を得ています。入場無料。＝詳細は1面参照

大会では、厚生労働省、国土交通省、建設業労働災害防止協会神奈川支部から挨拶を頂戴するほか、関東支部が実施する仮設安全監理者実務研修会を一般に公開し、仮設安全監理者の資格を取得した安全のプロ30名が仮設を点検している実際さながらの様子をお見せします。

また講演では、弁護士の長尾亮氏が「安全責任はこう追及される――裁判例から見て」と題し、豊富な裁判事例をもとに安全責任について講和するのを始め、特設会場では安全な仮設機材の組立解体の実演と展示をいたします。

実演・展示品（企業）は以下のとおりです。

アルインコの「シンプルストッパー」「シンプルガード」「セーフボード」「ガードブレス」、シンニッタンの「セーフティレール」「エルガード」「レールブレース」、住友金属建材の「アルミビティガード」「ハイシティ」、中央ビルド工業の「アルミスカイガード」、日工セックの「ウルトラセフティー」、日綜産業の「枠組足場用安全装備F－1シリーズ」、ピカコーポレイションの「ローリングタワー用・アルミ製可搬式作業台・アルミ製開閉式足場・アルミ製内階段」、ホリーエンジニアリングの「ホリーアップ」に加え、実務研修会でキョーワの「ボウエンメッシュ」、大嘉産業の「養生メッシュハローネ」、日本セイフティーの「養生メッシュシート」、東山産業の「ガードメッシュシート」、明治商工の「防炎1類メッシュシート」が、本部受付用に明治商工の「ロスベルガーテント」がそれぞれ使用されます。

片桐理氏（片桐機械(株)代表取締役）が藍綬褒章を受章

約1200社が加盟、組織する全国建設機械器具リース業協会の副会長を1984－96年と98－99年、会長を97年の1年間務めた。北海道では84年から2000年度の16年間にわたり、北海道建設機械器具リース業協会の会長を務め、本道での業界の信用と知名度向上に奔走。現在は、全国建設機械器具リース業協会相談役に就く。87年には、機器の維持管理のための建設機械器具賃貸業管理士の技術者資格を制定するほか、当組合では理事兼北海道支部長をつとめ仮設業界の発展に尽力している。

「このような栄誉ある賞を頂いたことは関係者のご協力を頂いた結果でもあり感謝したい。また社員にも実務的な部分の事業をしっかり継承して頂いたことに感謝している」と受章の喜びを語る。

建設業のレンタル業界に対する依存度が高まってきているなかで片桐社長は「経済的合理性からしても、さらに活用されていくはず。われわれは、ただレンタルするのではなく「機能・価値を貸す」意識で、安全なものを安定的に供給し、お客様の期待にこたえられるようコンサルタント業も含めた対応を行っていくことが必要」と業界発展の活路をそこに探る。

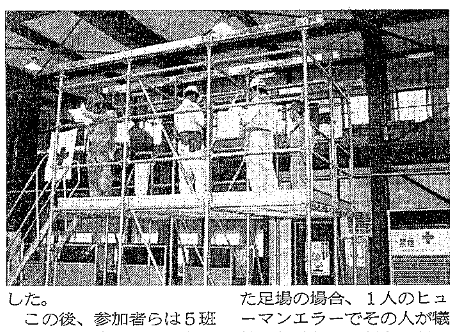
現在は建設CALSをはじめとするIT（情報技術）関連の受発注も盛んに行われているなかで同社はISO9001、14001を業界で最も早く取得し、またVE手法にもとづいた資格取得にも取り組んでいる。「これからはお客様の期待に応えられるようITを駆使して情報を活用していくことが非常に大切になる。より一層、業界の資質の向上に努力していきたい」とキッパリ。

「IT技術を有効に活用しながら、お客様が安心して使えるよう、また工期の短縮に結びつくような工法の提案等を考え、建設業界のパートナーとなるべく業界のシステム向上に微力ながら力を注いでいきたい」とさらなる意欲を掻き立てている。

近畿支部が第２回安全監理者実務研修会

型枠支保工での実務を体験

67人が検査の重要性を再認識



全国仮設安全事業協同組合近畿支部（藤井正光支部長）は11月13日、第２回目となる「仮設安全監理者実務研修会」を開きました。大阪府摂津市のポリテクセンター関西には仮設安全監理者の資格を持つ67人が詰め掛け、型枠支保工の点検実務を体験しました＝写真。

当支部では、８月に足場の安全点検実務研修会を実施しており、今回は①専用型枠支保工（パイプサポート式）②同（鋼管わく式）、③同（組立鋼柱式）④同（軽量型支保梁式）⑤軽量型システム型枠支保工――の実務プログラムを用意しました。

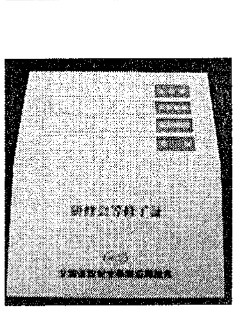
今後も毎年足場と型枠支保工に関する研修会を継続実施する方針で、大規模な重量型型枠支保工に関する研修会を開くことも検討しています。

研修会の冒頭あいさつで藤井支部長は「当組合では、仮設からの重大災害発生をなくすよう努めています。みなさんもこの研修で自信をつけて検査にあたり、重大災害の撲滅に貢献してください」と呼び掛けました。

この後、参加者らは５班に分かれ、当日に配布されたマニュアルをもとに各講師からの説明を受け、意図的に不具合個所を設けた各型枠支保工をチェックしました。最後には、トラックとクレーンで重量型システム型枠支保工を組み立てる様子を見学することもできました。

講評では、各型枠支保工を担当した講師陣が専門的なアドバイスのほか、「点検項目だけでなく客観的に見ることも重要」「まず図面との照合をしっかりやること」などの指摘を行い、続く閉会あいさつでは石井巧副支部長が「前回研修した足場の場合、１人のヒューマンエラーでその人が犠牲になるケースが多いが、型枠支保工では複数の人が犠牲になる危険性が高い。十分に注意して欲しい」と点検・検査の重要性を強調しました。

最後は、藤井支部長が参加者らに修了書を授与し、研修会は終了。第１回目と今回の両研修会に参加した金谷邦雄さんは「今回から参加者を班分けするなど改善が図られており、研修内容はよく理解できた。前回の研修後、これまで見ていなかった部分にまで目が届くようになった。あとは場数だと思う」と感想を述べました。



研修会等の修了証発行

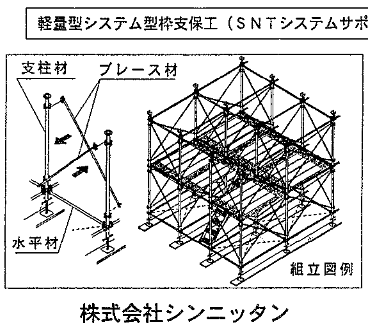
本部安全監理部

当組合の本部安全監理部では、仮設安全監理者実務研修会を受講された方に対して、「研修会等修了証」＝写真＝を配布することとしました。

修了証には、氏名、資格証番号、所属会社と連絡先を書く欄があります。

支保工機材の紹介

軽量型システム型枠支保工（ＳＮＴシステムサポート）



組立・解体が簡単便利

ＳＮＴシステムサポートは、主に土木工事や大型建築工事などに使用される型枠支保工用の仮設機材で、部材は充分な強度を有し、かつ、軽量で組立解体が簡便です。特にブレース材は独自の差込み着脱方式により、作業性に優れています。

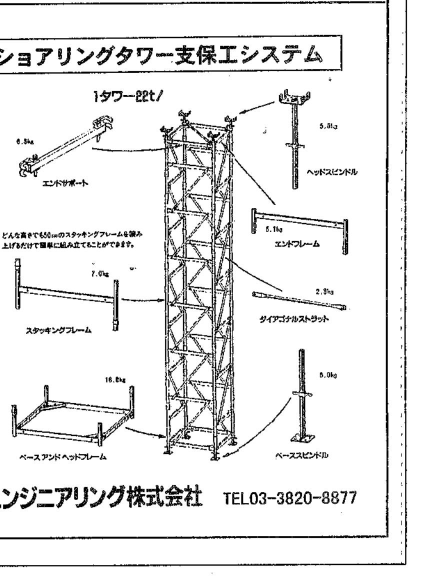
また、支柱にかかる荷重条件に応じてブレース材の組立本数を選択できるので、効率的な運用を行うことができます。

建機販売部（ＴＥＬ04－4200－7831）

株式会社シンニッタン

ＳＴショアリングタワー支保工システム

組立簡単なタワー式支保工システム。作業スペースも広く取れ、吊って移動できるので、作業性も大幅に向上します。また、基本構成部材はわずか７点で部材管理も簡単です。



ホリーエンジニアリング株式会社　TEL03-3820-8877